

## 野村圭佑さんの志を受け継ぐムジナモ

とても悲しく残念なお知らせです。野村圭佑さんが11月21日なくなりました。まだ64歳で、荒川のことについては、誰よりもよく知っている人でした。これまでもたくさんの本を書き、これからも次々と本を出したいとおっしゃっていたのに、さぞ無念なことと思います。

野村さんは、荒川区東日暮里にお住まいで、荒川区尾久の旭電化工場跡地によみがえった自然地を「トンボの楽園」にすることに尽力され、その工場跡地をよみがえらせた自然をたどって荒川に通うようになり、ヒヌマイトトンボの保全や河川敷にトンボ公園を造成させるなど、荒川下流部の自然回復と保全に尽力してこられました。

中土手に五色池を作るきっかけも野村さんの提案によるものです。総武線鉄橋下流中土手の自然の水溜りに希少種のミズアオイが自生しているのを発見し、この辺りに雨水の溜まる池を掘れば、ミズアオイが生えたり、トンボがたくさん発生するだろうからと、荒川を管理する建設省荒川下流工事事務所(当時の名称)に提案し、それを受けて、市民参加で五色池が出来たわけです。

池が出来てからも、野村さんは、毎月の観察会にほとんど毎回、荒川区から自転車で乗って参加し、植物や昆虫のことなどを教えてくれました。今は、五色池の看板のようになっているタコノアシも、最初に1本生えたのを見逃さず、それを大事に大事に育てたことによって、今のようにたくさん繁茂するようになりました。珍しい植物なので、盗られては大変と、見つけてから3年くらいはマスコミには勿論、ニュースに書くことも気を使っていました。

野村さんは、94年に舌癌の手術をされましたが、回復して元気に活動しておられました。その後、ガンが食道に転移し、その手術後は入退院を繰り返し



ながらも、病を押して荒川や各地を歩き、いろいろな提言を行なってきました。この間に何冊もの本を出し、入院中にその校正を行ったりしています。

上の写真は、『江戸の自然誌』という本を出版しその出版記念会で撮ったものです。葬儀ではこの写真が遺影として飾られました。

今年は、40年も育てていた食虫植物のムジナモの花が始めて咲いたとその写真を送ってくれました。(下の写真) 江戸川区小岩菖蒲園の近くで、牧野富太郎博士が発見し命名したのですが、環境の変化によって絶滅し、水槽などで育成されているだけです。このムジナモを江戸川区エコセンターで育成しようとしており、育成に協力してくれる人を探しています。

